

第25回毎日パソコン入力コンクール全国大会

ローマ字部門で第2位



▲メダルを胸に笑顔の寺嶋さん(右)

1月30日、寺嶋海晴さん(春日小学校6年)が井上市長を訪問し、同大会において、ローマ字の部で2位に入賞したことを報告しました。この大会は、パソコンのキーボード入力の早さと正確さを競うものです。

大会に向けて、朝5時に起きて練習に励んだという寺嶋さん。「次は優勝を目指してがんばります」と意気込みを語りました。

地域スポーツの普及に尽力

市スポーツ推進委員に県から感謝状



▲スポーツ振興に尽力してきた山村さん(右)

1月27日、同委員の山村洋一さんが井上市長を訪問し、県スポーツ推進委員感謝状の贈呈を受けたことを報告しました。

山村さんは、10年以上にわたりカローリングなどのニュースポーツの普及活動に尽力。「高齢者が楽しくスポーツをしている姿を見られることが何よりうれしい。今後も誰もがスポーツに親しめるよう取り組んでいきたい」と抱負を述べました。

誰もが安心して暮らせる地域づくりのため

エコーブ生活協同組合と包括連携協定を締結



▲地域の安心のために力を合わせる

2月3日、市は同組合と包括連携協定を締結しました。これにより、地域イベントに関する広報や健康づくり、子育て支援など多岐に渡る分野において連携し、サービスの向上を図っていきます。

同組合の堤理事長は「健康づくりや福祉などさまざまな分野において、地域の皆さんと力を合わせ、共に取り組む活動を進めていきたい」と今後の抱負を述べました。

第3回ドコモ未来ラボプログラミングコンテスト

市内の小学生がグランプリを受賞



▲左から阪本さん、村山さん、市長、西田さん

2月2日、同コンテストの受賞者が井上市長を訪問し、作品を披露しました。グランプリの作品は、発語に不安を持つ子どもが楽しくトレーニングするためのツール。思いやりから生まれた作品に、市長が賛辞を述べました。(敬称略)

- ▷グランプリ 西田律希(天神山小学校6年)
- ▷未来賞 村山 禅(春日南小学校3年)
- ▷入賞 阪本滉太(天神山小学校6年)



自らの選択が地球の未来を左右する

春日北中学校で脱炭素ワークショップ



▲仲間と協力し、日本のためにどうすべきかを検討

2月13日と20日、同中学校3年生を対象に、カードゲーム「2050カーボンニュートラル」を活用した脱炭素ワークショップを実施しました。生徒たちはゲームを通して、自分が選択した何気ない行動が未来の地球環境を左右することを実感。「目先の利益だけではなく、最終的な影響を考えて行動することが大切だと気付いた」との感想が聞かれ、一人一人の選択と行動の重要性を学びました。

地域の健康づくりに貢献

健康運動推進実践グループ奨励賞を受賞



▲活動が評価され、笑顔の皆さん

2月6日、第72回福岡県公衆衛生大会・令和7年度福岡県食生活改善大会において、上白水地区のにぎにぎサークルが県から表彰されました。

毎週土曜日に、公民館でにぎにぎ体操と脳トレを続けて11年目。児島牧夫代表は「みんなで集まって話をするだけでも楽しい時間が過ぎて、脳トレになる。まだまだ続けて行きたい」と笑顔で語りました。

★表紙関連

元バレーボール日本代表が春日市に

宝くじスポーツフェア ドリーム・バレーボールin春日

2月14・15日に、総合スポーツセンターでドリーム・バレーボールin春日が開催されました。このイベントは、宝くじの社会貢献広報事業として実施されているものです。監督の川合俊一さんをはじめ、元女子バレーボール日本代表選手11人で構成されるドリームチームを迎え、指導者クリニックやバレーボール教室、フレンドリーマッチなど、さまざまなイベントを行いました。

バレーボール教室には、小・中学生や市内で活動するママさんバレーボールの選手など約200人が参加。ドリームチームによるお手本に目を輝かせながら、レシーブ、トス、アタックなどの技術指導を受けました。

フレンドリーマッチでは、市選抜の3チームとドリームチームが対戦。市選抜チームが必死に食らいつき、長いラリーが続くなど白熱した試合が展開されました。結果は、世界レベルの技術と高さを見せつけたドリームチームが3試合とも勝利し、訪れた約1,000人の観覧者を魅了しました。



▲中学生への熱のこもった技術指導



▲高い位置からのアタックを必死にブロック

協働のまちづくりを体現

かすが市民懇話会活動報告書進呈式



▲会員みんなの思いを込めて活動報告

2月18日、第19・20期かすが市民懇話会の約2年間の活動をまとめた活動報告書が、岩本 晃^{いわもと あきら}会長から井上市長に進呈されました。進呈後に市長と懇談した会長と副会長3人は「同会の節目となる20年目に参加することができ、感慨深い。改めて住むまちへの愛着や、今の環境が市民・地域と行政の協働のまちづくりの積み重ねで実現しているものと感じるが増えた」と思いを語りました。

郷土の歴史に触れる

歴史講座「春日の歴史と魅力再発見」



▲熱心に聞き入る受講者

3月7日、奴国の丘歴史資料館で同講座を開催し、42人が参加しました。

市職員が、市内に残る中世の荘園「白水荘^{しろうずのしょう}」の発掘調査結果を分かりやすく解説。また、午年^{うま}にちなんで、土で作られた馬など、馬に関連する市内の文化財を紹介しました。

参加者は熱心に耳を傾け、「知らなかったことが多く、興味深かった」と感想を話していました。

男女共同参画施策の推進に向けて

市男女共同参画審議会から市長へ答申



▲答申書を手渡す井上会長(中央)と竹内富美子副会長(右)

2月17日、同審議会が、第5次春日市男女共同参画推進プラン(案)について、市長へ答申を行いました。同プランは、誰もが性別にかかわらず個性と能力を発揮できる社会の実現を目指すものです。

同審議会の井上智史^{いのうえ ちし}会長は、現状や課題についてさまざまな議論を重ねてきたことを踏まえ、「目指す社会の実現のため、継続的な取り組みを推進してほしい」と思いを述べました。

市内で全国大会を開催

第32回ジャパンカップビーチボール選手権福岡大会



▲かすがくん、あすかちゃんも一緒に選手宣誓

2月21・22日、総合スポーツセンターと大谷小学校を会場に同大会が開催され、全国からおよそ2,000人が参加しました。「いつでも、どこでも、だれでも」手軽にできるスポーツとして親しまれているビーチボールの全国大会で、県内での開催は初めてです。男女別に年齢ごとの6部門に分かれて対戦。白熱しつつも和やかなムードで、参加者は大会を通して交流を深めました。